

## 第78回セメント技術大会 講演要旨原稿執筆要領

### 1. 講演要旨の体裁について

- (1) 講演要旨は和文または英文で記述する。
- (2) 原稿はA4判(幅210mm×高さ297mm)、横書きのものを2枚とする。余白は上余白；25mm、下余白；25mm、左余白；17mm、右余白；17mmとする。
- (3) 原稿は1ページ当たり、25字×48行×2段組とする。ただし、1ページ目の1行目から9行目までは1段組として題目や著者などを記述し、10行目より2段組として本文を開始する。
- (4) フォントはサイズを10.5ポイント(講演題目のみ14ポイント)カラーをブラックとし、字体は以下の通りとする。なお、PDFに埋め込みのできないフォントは使用しないこと。  
見出し\* ✓ ゴシック体(MSゴシックなど) ※大見出し、中見出しのみ  
本文 ✓ 日本語 明朝体(MS明朝など)  
✓ 英数字 Times New Roman、Times
- (5) 文章は簡潔に、原則として常用漢字および現代かなづかいを用い、用語については文部科学省学術用語、JISおよび関係学会等の用語辞典から選択することが望ましい。
- (6) 文章の区切りには、全角の句読点「、」「。」を使用する。
- (7) 単位や記号および英数文字は半角を用いて記述する。また、単位はSI単位系を標準とする。
- (8) ギリシャ文字およびローマ数字は、半角英数字フォント(Times New Romanなど)を用いて記述する。  
例 α、β、γ、I、III、VI、i、iii、vi など

### 2. 講演題目および著者の表記方法について

※版下原稿の作成時に、講演申込の記載内容を差し込みます。

- (1) 講演題目は、1行目および2行目に、左詰めで全角3文字を空けて、14ptの明朝体のフォントを使用して記述する。
- (2) 著者名および所属は、4行目から7行目に、10.5ptの明朝体のフォントを使用して記述する。
- (3) 所属は、△△株式会社 △△部、△△大学 △△学部、△△大学 大学院△△研究科まで記述する。連名者の所属が、上記の著者と同一の場合は、所属の記述を省略する。
- (4) 著者名は、姓と名の間にスペースを入れずに記述する。
- (5) 1講演当りの連名者数は、講演者を含めて4名以内とし、講演者名の前に○印を付ける。

例 (□は全角スペースを示す。)

1行	□□□クリンカーの焼成条件と水和・・・	サイズ 14pt
2行	□□□	サイズ 14pt
3行		サイズ 10.5pt
4行	豊島大学 工学部	著者 1
5行		著者 2(講演者)
6行	○ 利根太郎	著者 3
7行	桜橋建設株式会社 技術研究所	著者 4
8行	筑後次男	空欄
9行		空欄
10行	1. はじめに	本文 (2段組)
	.....	.....



## 5. 図、表および写真の表記方法について

- (1) 今回はCD-ROM版による販売となりますのでカラーでの掲載となります。
  - (2) 明確に判読できるよう鮮明に作成する。
  - (3) 図・表・写真中の説明は、和文原稿の場合は和文、英文原稿の場合は英文で記述する。
  - (4) 本文と区別ができるように上下1行ずつ空ける。
  - (5) 図・表・写真の番号は、それぞれ独立した通し番号を付ける。
  - (6) タイトルおよび図表番号は中央揃えで、表の場合は上端、図および写真の場合は下端に記述する。
  - (7) 本文中での引用は、図1、表1、写真1(英文は、Fig. 1、Table 1、Photo. 1)のように記述する。

例

に使用した材料の化学的性質を表1に示す。この結果を図1に示す。

表 1 使用材料の化学的性質


これらの材料を使用して、○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

の結果を図1に示す。

図1 焼成温度の影響

その結果、○○○○○○○○○○○○○○

## 6. 参考文献の表記方法について

- (1) 前段より1行空け【参考文献】を記述し、改行した後に文献の詳細を記述する。

(2) [文献番号] [著者名※1]: [論文題名], [雑誌(書)名], [巻号], [発行所※2], [頁※3] ([発行年※4]) の順に、文献の詳細を記述する。

(3) 本文中での引用は、<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>のように片カッコの文献番号を上付きで記述する。

例

・・・らの結果<sup>1)</sup>と同様の結果となった。

← 1行あける

## 【参考文献】

- 1) 月山一夫、羽黒次朗：セメントの種類と○○に関する研究、セメント・コンクリート論文集、No.○○、pp.23-29(19○○)
  - 2) 湯殿満男ほか：○○装置を用いた硬化コンクリート中の△△組織測定方法、セメント・コンクリート、No. △△、p.63(20△△)

※1 著者名は、姓名の間にスペースを入れない。

著者が複数名いる場合、著者間の区切りは読点「、」を使用する。

著者が3名を超える場合は、筆頭著者以外を「ほか」として省略してください。

※2 参考文献が書籍の場合は、発行所を記述する。

※3 引用する章が、1頁の場合は p.○○○、複数頁の場合は pp.○○-○○と記述する。

※4 発行年は、月日を入れず両括弧で括り記述する。

7 間合せ先

ご不明な点は下記までお問合せください。

一般社団法人セメント協会 研究所  
技術情報グループ セメント技術大会 担当  
TEL 03-3914-2692 FAX 03-3914-2690  
MAIL ica.event@icassoc.or.jp ※は@を入れる

以上